

## 令和5年度「ニセコスタイルの教育」研究会 研究のまとめ

### 発足の第一歩を踏み出して

「ニセコスタイルの教育」研究会会長 佐々木 淳

「ニセコスタイルの教育」の中心は、小中一貫教育を柱に幼児センター、ニセコ高等学校までの連続のある学び、英語教育とふるさと教育を重点に据えた学びです。本研究会を発足した機会に、「ニセコスタイルの教育」との連動をすることで、町内全教職員で実践・連携を深める場として出発しました。

本研究会の核は『4つの目』となります。「ニセコスタイルの教育」の重点である「英語教育」「ふるさと教育」、連続する学びを支える「授業のあり方」「通常学級における配慮が必要な児童生徒への支援のあり方」という『目』です。

『4つの目』で実践・連携したことは「ニセコに誇りをもち、たくましく生きる人」(CSのこんな子どもにしたいという願い)を育てる重要な土台となっていきます。ここにWEB上での発表として、多くの皆さんの『目』に触れ、そして『声』をいただき、次なる実践・連携に磨きをかけていきます。

### 研究のまとめ掲載にあたって

ニセコ町教育委員会 教育長 片岡 辰三

この度「ニセコスタイルの教育」研究会の「研究のまとめ」を創刊するに当たり、皆様の取組に敬意を表するとともにお祝い申し上げます。

喫緊の教育課題として、「個別最適な学び」「協働的な学び」を推進するため、ICTを活用した授業改善や、特別支援教育の充実、探究的な学び、総合的な学習の時間の見直しが求められております。各学校では新学習指導要領が実施展開されており、また、教科書改訂の時期を迎えており、これまでの実践の成果が問われております。

少子化に伴う学級減や閉校により管内教職員数も減少し、後志管内の研究会等の廃止などにより、自己研鑽の場が少なくなっております。そのような中で、各町村の研究・研修組織の重要性が益々高まっています。ニセコ町におきましては、これまでのニセコ町教育研究会に代わり、「ニセコスタイルの教育研究会」を設立し、教職員の学びの場として、各部会ごとに研究研修に取り組んできております。今後は本研究会の活動が定着・充実し、資質能力の向上につながることを期待しています。

### 1 研究の目的

ニセコで学び、ニセコを愛する子どもたちを育てるために、校種を超えた園・学校の連携をすることで、校種間の接続を滑らかにし、また子どもたちの特性を生かす長期的な支援を築き、子どもたちの豊かな学びを実現する。そのために授業を軸とした交流をもとに教職員の資質能力の向上を目指す。



## 2 目指す全体像

- (1) 幼児センターから高校まで連続性のある一貫した教育
  - ・9年間を見通した小・中学校の円滑な接続・連携。
  - ・幼～高まで一貫した教育の展開、地域人材の育成。
- (2) ニセコらしさを生かした教育
  - ・ニセコの地域資源を教育に活用（まちづくりや文化、自然環境、多様性・国際性…）
  - ・有島武郎の相互扶助理念の継承。
- (3) 発展的持続可能な教育
  - ・コミュニティ・スクールと連動。
  - ・学校と児童生徒・保護者・住民が一体となった地域に誇りの持てる教育の実践。
  - ・教職員が充実を実感できる指導の実現。

## 3 幼・小・中・高をつなぐ ニセコスタイルの4つの柱

【授業スタイル】 主に研修、学力向上、実践者など

→ の校種でも共有できる学習過程等の検討・実践

【英語スタイル】 主に外国語担当者、英語科、学力向上担当者など

→ 円滑な接続を図る英語教育の検討・実践（CAN-DO リストのすり合わせ等）

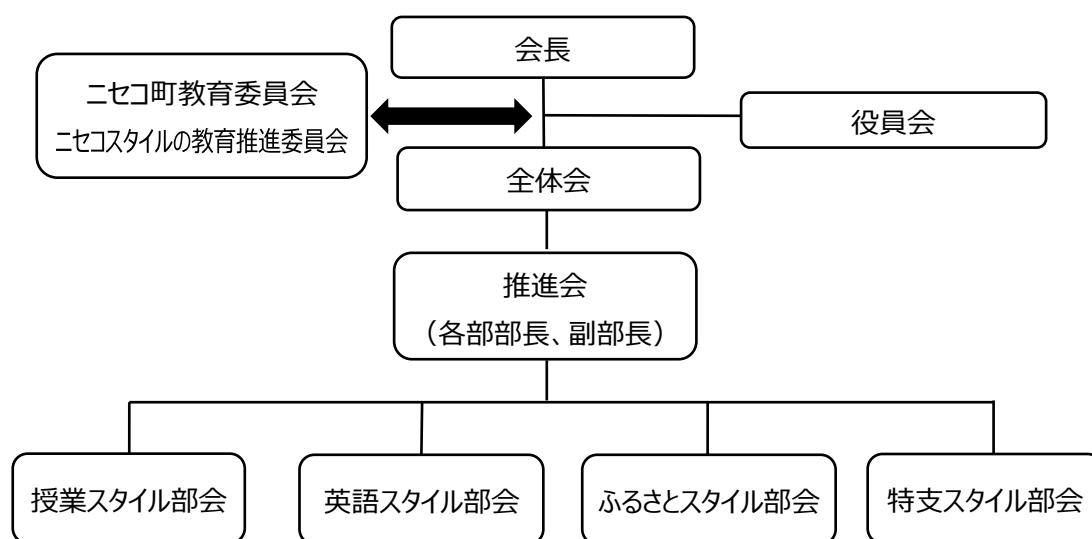
【ふるさとスタイル】 主に総合担当者、実践者など

→ ニセコ町の地域資源を活用した学習の検討・実践（掘り起こし、教育課程のすり合わせ等）

【特支スタイル】 主に特別支援 CN、生徒指導、実践者など

→ 特別な配慮を必要とする生徒への支援や方策の検討・実践

## 4 組織



## 6 活動の概要と成果について

### (1) 各部会

#### 《活動の概要》

4月、6月、8月の合計3回の一斉部会を行いました。授業スタイル部会では「学習規律の統一」、英語スタイル部会では「CAN-DOリスト」の見直し、ふるさとスタイル部会では「9年間を通した総合的な学習の系統」、特支スタイル部会では「特別支援の視点からの授業交流」など、部会のテーマに沿った研究が進められました。

#### 《成果》

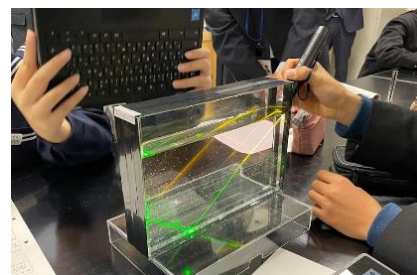
令和5年度は、本研究会立ち上げの年度ということで、基本的には4校種の先生方が集まり、様々な視点から「交流」することをベースに進めてきました。一斉部会以外にも、部会ごとに「Google classroom」を活用し、様々な呼びかけや交流が行われたことは大きな成果だったと考えます。

### (2) 「ニセコスタイルの教育」研究大会

#### 《概要》

11月15日(水) 12:30~16:20

- ・公開授業 ニセコ中1A理科(授業スタイル部会)  
ニセコ中2A国語(特支スタイル部会)
- ・開会式 「ニセコスタイルの教育」についての説明  
(ニセコ町教育委員会)  
「協議の柱」について説明(事務局)
- ・研究協議  
(5, 6人でのワークショップ・グループ協議)
- ・助言
- ・講演



#### 《成果》

町外からの参加者もありました。開会式では教育委員会から「ニセコスタイルの教育」の目指すところについて、丁寧な概要説明がありました。2本の公開授業の後、「学校間連携」をテーマとしたワークショップ型の研究協議によって、活発な意見交流がなされました。

また、講演では、「地域と結びついた探究活動」ということで、本研究会がこれから目指すべき「探究的な学び」について、たいへん勉強になる内容でした。



### (3) 道外視察

#### 《概要》

- 行き先 茨城県古河市中等教育学校
- 訪問者 ニセコ中学校より2名
- 日 時 11月21日(火) 9:00~12:30
- 内 容 中高一貫教育における探究的な学習活動の取組について説明を受け、学習の様子・校内の様子等参観。



#### 《成果》

平成25年度に開校した中高一貫校。令和5年7月に、4・5年次生で実施している探究的な学習を文部科学大臣が視察し、その後各研究室の代表者と意見交換をしたそうである。

「探究的な学習」について学ぶため、中学校から2名で訪問した。1～4年次の英語、国語、数学の授業を参観し、その後4、5年次で行っている「課題研究」の昨年度の成果物や、校内設備等を見学した。ほぼオールイングリッシュでの英語授業や、調べ学習や発表だけにとどまらないレベルの高い探究活動に触れることができた。



## 7 今後に向けて

今年度は、幼児センター、小学校、中学校、高校の4校種の先生方が交流することがメインの活動となりました。交流をベースにした1年間は、ニセコ町教育委員会が目指す、幼～高まで連続性のある一貫した教育の実現に向けた下地作りとなったと確信しています。

令和6年度は、各部会の目標を明確にし、研究をより深められるよう、早い段階から外部講師を招聘しての研修や、先進的な取組を行っている学校への視察などを進め、授業実践へとつなげていく予定です。そのために、令和5年度のうちにある程度の方向性を定めてから、新年度を迎えます。

また、令和6年度についても11月13日(水)を「ニセコスタイルの教育の日」として町内4校種の先生方が集まって「ニセコスタイルの教育」研究大会を行う予定です。公開授業を軸に研究を深めたいと考えています。